

水防工法

岩手縣河川協會

(一) 漏水 堤防の裏法に滲透水を認める時

詰め土俵 川表の漏水口を索り當てたる場合

口に土俵を杭止め詰土俵す

張 漏水口不明にして數箇所より漏水する場合

簾を小割竹又は帶稍柳を針子縫とし重り土俵を載せ浮止めとし挿杭をなす

織 簾 漏水口が水中深く生じたる場合

長簾又は織簾に重り土俵を付して表法に掛け下げる、重俵は細又は鐵線て釣り下げ簾の裾に俵が載る様にする

蓋 築 犬走或は堤内地に漏水する場合

漏水口の周圍に圓形に土俵又は砂利俵を小口並べに積み上げ水壓を減殺させ靜に土俵上を溢流さす

月の輪 裏法より漏水する場合

半月形に土俵を積み上げ其の内に漏水を溜め壓力を減じ水を緩かに流す

(二) 川表の缺け崩れ 表法の缺け崩れた場合

掛け木 激流又は波浪に依つて表法の崩壊する場合

掛木は枝葉の繁茂せる樹木を根元より伐採、枝に砂利俵を結び鐵線小割竹を結び留杭に繋ぎ止め、所要の箇所
に流し掛く

屏風返し 表法の波浪に依る缺壊防止

竹又は帶稍柳を約三十種乃至四十種間隔に堅骨とし、蓋又は長莖の雜草を立て掛け約四十五種間隔に押當て、
縦骨と横骨とを配し二子繩で結び組立終りたる後川表に折返し其の上に重り土俵を置く、土俵は細又は鐵線て
結び天端に留杭を置く

築廻し 川表崩壊堤防断面増大を必要とする場合

川表に杭を打ち廻し(柵板を行ふ場合あり)其の内へ土俵を詰めて杭留とす

疊張簾張 表法の波缺けある場合

法面に古疊或は簾を押し當て割竹又は柳を折曲げて法面に針子縫とす、簾の掛け下しには簾に土俵を巻き込み
細又は鐵線を弛めつゝ漸次掛け下し細又は鐵線を天端で杭留す

土俵羽口 堤防法面の崩壊したる場合

土俵を小口並べとし其の上に半俵引に勾配を付し漸次積み上げ土俵の背部に土砂を填充すべし

(三) 天端及川裏の龜裂、缺け崩れ 滲透水等の爲め川裏法面に缺け崩れ端天法面に龜裂を生ずる場合

繋ぎ縫 天端に龜裂を生じたる場合

龜裂の前後に長九尺、徑二寸乃至三寸の杭木を一米乃至二米間隔に打込み此の前後の杭間を竹又は柳で繋ぎ約
二米毎に重り土俵を置く

控取り鞍掛 川裏に龜裂の生じたる場合

土俵を蛇腹縫とし二寸前後の竹を二米乃至五米毎に建て並べ表肩にも同様に竹を建て連ねて相互に竹を連結す

五 德 川裏法の龜裂、崩壊を生ずる場合

徑二寸位の竹又は帶稍柳を片のめりに尖らし一米間隔に三本又は四本を地中深く突き挿し、地上一米二〇乃至
一米五〇で結び之に重り土俵を載す、堤體が張芝なき場合は水土俵を用う、五德は法中腹に施行するよりは法
先に行ふ方効果多し

(四) 越水 堤體沈下の場合或は堤高以上の水位に達する場合

積土俵 天端表肩より五〇種乃至一米を隔てて所要の高さ迄積立つべし、土俵繼手の間隙は漏水を防止するため簾、蔴
等を押當て、目止め土を掛ける場合あり、又積土俵三俵以上に達するときは小杭を以て串差とす

(五) 水門、坎樋、陸間の應急工法

樋管の漏水箇所不明又は底部より漏水する場合

月輪締切を築き漏水の壓力を減殺し川表戸前に詰め土俵をなす

水門、坎樋、陸間等の扉より漏水する場合

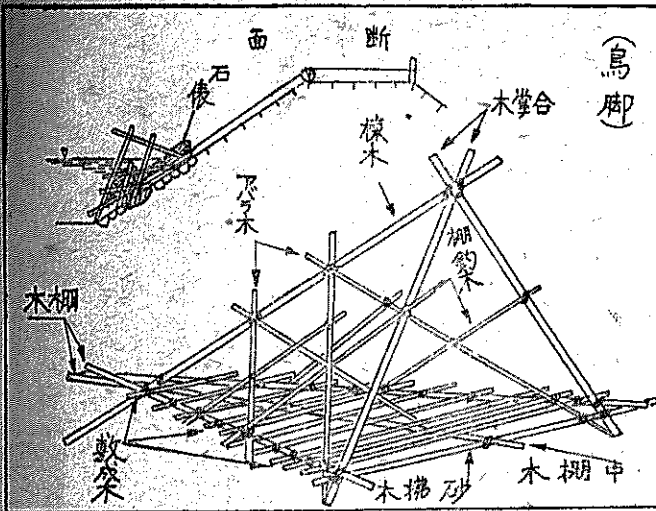
扉又は角落のみにては漏水の虞あるか或は安全を期し難き場合は扉の前方又は後方に詰土俵をなす

水位が水門、陸間の扉を溢流する場合

扉の前面に角落板を入れ其の間に詰土俵をなす

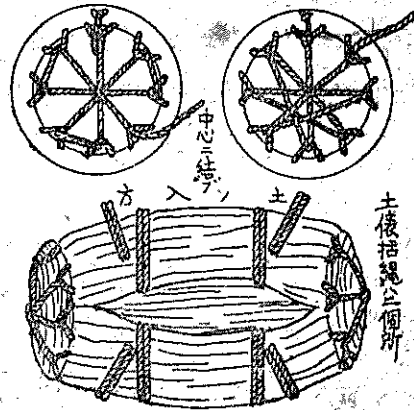
水門、坎樋の川表袖が崩壊する場合

掛木をなし土俵羽口をなす

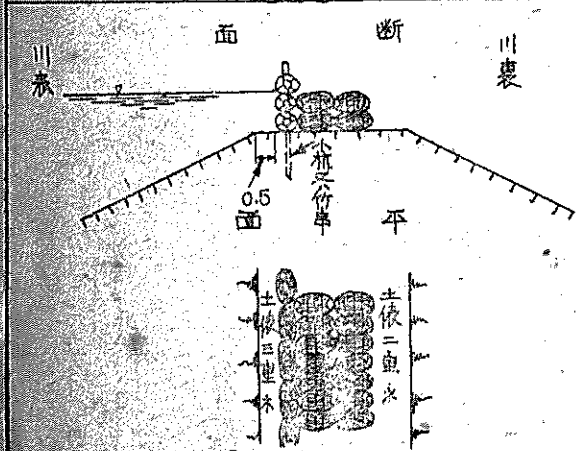


(鳥脚)

一 棧橋 二 當方 三 概

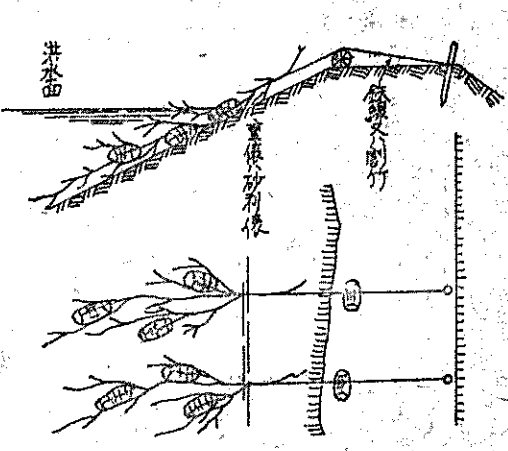


(土俵橋)



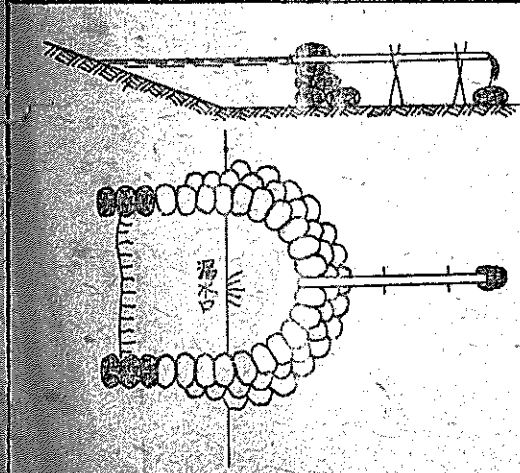
(積土俵)

溢水ヲ防止スルニモテ積土俵ニ依テ
ナルトハ小杭又ハ竹串ヲ以テ岸差トス
危険ヲ防止ス



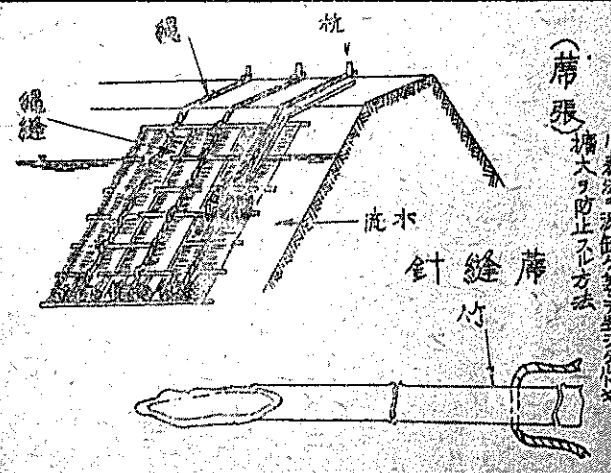
(概)

川表土面ニ崩壞ヲ生ジタルトキ
崩壞擴大ヲ防スル方法



(月ノ輪)

濁水ノ急激カシ提防ニ對シテ
アトキ此工法ヨリ濁水ノ急激
ノ濁水近接シテ以テ水壓ヲ減弱シ
危険ヲ防止ス



(蓆張)

川表法水激カシテ生ジタルトキ
擴大ヲ防止シテ方法